



TITLE:

公營造物ニ關スル美濃部、織田、  
松本三博士ノ所論ヲ讀ミテ東京市  
電車舊乗車券問題ニ及ブ(其一)

AUTHOR(S):

福田, 徳三

---

CITATION:

福田, 徳三. 公營造物ニ關スル美濃部、織田、松本三博士ノ所論ヲ讀ミ  
テ東京市電車舊乗車券問題ニ及ブ(其一). 經濟論叢 1916, 3(4): 563-571

ISSUE DATE:

1916-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127095>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號四第

卷三第

故法學博士井上密君肖像并哀辭

## 論說

對露輸出代金決済方法

國防稅ノ當否(三、完)

代表紙幣ト獨立紙幣(二)

課稅ト獨占價格(二)

戰後ノ人口増加政策(三)

保險本質論(三、完)

## 雜錄

重子 在外正貨問題ヲ河津博士ニ答フ

公營造物ニ關スル美濃部織田松本三博士ノ所論  
ヲ讀ミテ東京市電車舊乘車券問題ニ及ブ(二)

支那ニ於人口過剩論ノ梗概

移民政策<sup>上ヨリ</sup>觀タル邦人同化問題

村落共產體ノ發達

らぐれー『ミール』學說ノ研究(三、完)

過去ニ於和蘭ノ植民の活動

神惟孝<sup>ノ事ニ就キ</sup>鈴木券太郎氏ニ答フ

漬物机上觀

法學博士 戸田 海市

法學博士 神戶 正雄

法學士 作田 莊一

文學士 高田 保馬

法學士 米田 庄太郎

法學士 小島 昌太郎

法學博士 神戶 正雄

法學博士 福田 德三

法學博士 鈴木 券太郎

法學士 山本 美越乃

法學士 本庄 榮治郎

商學士 大塚 金之助

山本 美越乃

瀧本 誠一

法學士 財部 靜治

(載 轉 禁)

公營造物ニ關スル美濃部、

織田、松本三博士ノ所論ヲ

讀ミテ東京市電車舊乘車券

問題ニ及ブ(其二)

福田 德三

(一)

畏友美濃部博士ヨリ日本行政法第三卷ノ惠贈ヲ忝フシタルトキ予ハ先其緒論ヲ讀ミ博士ガ行政法傳來ノ分類ヲ排斥シテ新タニ獨創ノ分類ヲ下シ、警察法、公企業法、公物法、公用徵收法、法政法、財政法、軍政法ノ七類トセラレ以下之ニ基キテ各論ヲ公ケニス可シト約束セラレタルヲ見テ頗ル會心ヲ覺エ殊ニ博士ノ所謂公企業權ナルモノハ社會政策ノ研究者タル我等ニ取リテ必ズ多大ノ興味アルモノタル可キヲ思ヒ今日ニ至ルマデ鶴首シテ其章ヲ載セタル博士著述ノ續卷ノ刊行ヲ待チツツアリ。然ルニ其後東京市教育課ノ囑ニヨリ『都市事業ト社會政策』ナル講演ヲ試ミ殊ニ市營電車ノ經濟的性質ニ論及スルニ就

テ若干思索ヲ重メタル結果美濃部博士ノ公企業ナル概念ニ就テ疑ヲ起ス所アリ一日博士ト會談ノ榮ヲ得タルトキ公企業ト公營造物ニ就テ博士ニ教ヲ乞ヒシ所博士ハ兩者ハ全然同一意ニ解ス可キモノナリト云ハレ予輩ガ抱キシ疑惑ハ更ラニ一層ノ深キヲ加エタリ。然ルニ此頃接手シタル法學新報第二十六卷第八號ヲ見ルニ『營造物ノ觀念ニ付テ』ナル博士ノ一文ヲ載セアリ。就テ一讀スルニ曩キニ會話ノ際予ニ教エラレタルト同一ノ趣意ヲ更ラニ詳細ニ説明セラレタルモノニシテ予ハ爲メニ蒙ヲ啓クコト一再ニシテ止マラズ。博士文ニヨリテ喚起サレタル營造物問題ニ對スル予ノ注意ハ更ラニ京都法學會雜誌第十一卷八號ニ載セタル織田博士ノ『營造物ニ關スル問題』テフ一文ヲ精讀セシメタリ。而シテ又タ本日接到ノ法學協會雜誌<sup>三十四號</sup>ニハ『電車舊乗車券ノ效力ニ付テ』ナル松本博士ノ論文及『公用物ニ關スル判例ヲ評シ故穗積八束博士ヲ懷フ』テフ水野博士ノ論文ヲ載セ恰モ日來ノ問題タル東京市電車舊回數券ノ效力ニ關スル訴訟

九月六日東京朝日新聞  
第五面ニ其事ヲ掲グ

ト關連シテ法律門外漢タル予輩ニマデ多大ノ興味ヲ覺エシメタリ。水野博士及織田博士ノ問題トセラレタル小學校事件ハ主

トシテ法律上ノ事柄ニシテ予等ニ判別ノ資格全ク之レナキモノニ屬スト雖モ東京市電車舊乘車券ノ效力問題ハ一ノ法律問題タルト共ニ一ノ經濟問題タリ、殊ニ都市社會政策ニ於テ向後或ハ繰返ヘシ起ル可キ重要ノ問題ニシテ曩キニ東京市講演ニ於テ此問題ニ觸レタル以上予輩公法モ私法モ全ク之ヲ知ラザルモノト雖モ經濟學上多少ノ考究ヲ積ムノ義務アルガ如ク感ジタリ。然レトモ予ハ當面ノ法律問題ニ容喙スル能力ヲ全然缺クモノナレバ單ニ一ノ經濟論トシテ公(殊ニ都市)營造物ニ關シ諸先輩ノ論說ヲ讀ミテ得タル感想ト予ガ今抱ク所ノ固陋ノ意見トヲ筆錄シテ我經濟學同人ノ叱正ヲ仰ガント欲ス。

(二)

都市經營事業 Gemeindefetriebe ニ關シテハ獨逸社會政策學會ニ於テ去千九百九年維納ニ開カレタル大會アリ、ふつくす、もむべると、があい

す三教授報告者トテ研究調査ノ結果ヲ公表シ別ニ多數ノ學者分擔シテ Gemeindebetriebe ナル題名ノ三卷ヨリ成ル大冊ヲ公ケニシアリ。而シテ其全體ヲ綜括スルモノハふつくす教授ノ主報告是レナリ。サテふつくす氏ハ自治體經營事業ヲ定義シテ Einrichtungen einer Gemeinde zur Produktion von Dienstleistungen oder Gütern für sich selbst oder für ihre Angehörigen oder diejenigen anderer Gemeinden" (自治體ガ自己ノ爲メ又ハ其市民又ハ他ノ自治體ノ市民ノ爲メニ勤勞給付又ハ財貨ノ生産ヲナス爲メノ設備)ナリトシ更ラニ之ヲ分類シテ、左ノ如シトセリ。

一、自己生産。自治體ノ家計ニ自ラ要スル財貨、利用、又ハ勤勞給付ヲ自ラニ於テ生産スルコト即チ狹義ニ於ケル團體欲望ノ充足。

イ、自治體ノ目的ノ爲メニスル自治體所有地ノ收得并ニ管理。

ロ、街路ノ點燈ノ設備。

ハ、自營建築。

ニ、自治體吏員及勞働者用住宅ノ製作、建造、自治體用印刷所。

二、流通生産。自治體市民ノ欲望充足ヲ目的トス。

雜錄

公營造物ニ關スル美濃部博士等ノ所論ヲ讀ミテ(一)

第三卷 (第四號 五六五) 一〇五

田、自治體市民ノ利用ニ供スル營造物及設備。勤勞ノ生産、自治體市民欲望ノ間接的充足。

イ、衛生的設備。即チ屠獸場、公設市場、洗濯所、浴場、消毒所。

ロ、交通ノ設備。市街及郊外鐵道軌道、港灣設備、倉庫ハ、教育、藝術、學問ノ營造物。學校、博物館、劇場。

乙、狹義ノ生産企業。自治體市民ノ欲望ヲ直接ニ充足スルコト、商品及利用ノ生産。

イ、點燈及給水。瓦斯、水道、電氣事業。

ロ、土地ノ收得及管理。

a. 農林業的

b. 都市的

ハ、狹義ノ營利的企業。

a. 食料品ノ生産及獲得。

b. 賣藥、藥劑。

c. 原動力ノ供給(瓦斯及電力)養便ノ利用、新聞及

張札廣告ノ營業等。

而シテ氏ハ又タ自治體事業ヲ大別シテ

一、營造物 Anstalt

二、企業 Unternehmung

トナシ其區別ノ標準ハ Gewinnabsicht (射利目的)ノ有無ニアリトシ、營造物ニヨリテ得ル收入 Gebühren 手数料ニシテ企業ニヨリテ得ル所

又ハ Erwerbseinkünfte (營利收入) ナリトス。氏ハ

一、 Zuschussbetriebe 補助經營

二、 Ueberschussbetriebe 餘利經營

ノ區別ヲ設ケ事業ノ收支償ハズ自治體ノ一般經濟ヨリ補助ヲ要スルヲ補助經營ト云ヒ其事業收支ノ結果餘利ヲ生ズルヲ餘利經營ト云ヘリ。此區別ハ結果ヨリ見テ下ス所ニシテ營造物、企業ノ區別ハ動機ヨリ見テ下ス所ナリ。故ニ兩者必ズシモ一致セズ時ニ交錯スルコトアル可シ。即チ目的ヨリ云ヘバ企業ナルモ其事實上ノ結果ニ於テ補助經營タルモノアル可ク目的上營造物ニシテ事實上ハ餘利經營タルモノモアル可シト。是レヲふつくす所論ノ要旨トス。而シテ氏ノ論ハ大體ニ於テ獨逸社會政策學會ヲ構成スル大多數ノ獨逸經濟學者并ニ社會政策學者ノ是認スル所ト云フモ大過ナキナリ。

(三)

今先ツ右ノ立場ヨリシテ美濃部博士ノ論ヲ見ルニ若シ博士ノ主張セラルル所ガ獨逸行政法學

者多數ノ意見ニシテ企業ト營造物トヲ全然同一視スル事ガ一般ニ認メラレアル者トスレバ行政法學ト經濟學トハ此點ニ於テ全然相容レザルモノナリ。思フニ企業ト營造物トノ關係ハ經濟學ニ於テハ企業ト經營 Unternehmung und Betriebノ問題トシテ取扱ハルル所ト同一ナルガ如シ。企業ト經營トノ異同ニ就テハ當テ國民經濟雜誌上ニ於テ關、上田、坂西、諸氏ノ間ニ討論セラレタルコトアリ當時予モ驢尾ニ附シテ一論ヲ試ミタリ。他國ノ經濟學ニ企業經營異同ノ問題ナキコトハ恰モ獨逸以外ノ行政法學ニ企業營造物異同ノ問題ナキガ如シ。經營ナル獨逸語ヲ(邦語ニハ譯出シアレトモ)英佛伊語ニ譯出スルコト殆ンド不可能ナルハ營造物ナル獨逸語(邦譯ハ Betrieb)ニ對スル譯語經營ヨリモ流カニ拙劣ナリ)ヲ他國語ニ譯出スルノ不可能ナルニ均シ。美濃部博士ガ企業ト營造物トヲ同義語ナリトシテ此ノ面倒ナル異同論ヲ一掃的ニ放擲セラルルハ恰モ經營ト企業トヲ經濟學ニ於テ同義語トシ事實經營ナル概念ヲ捨テ去ラントスルニ似タリト云フ可シ。

轉ジテ織田博士ノ文ヲ見ルニ博士ハ必ズシモ美濃部博士ト同説ヲ執ラルルモノニアラザルガ如シ。果シテ然ラバ美濃部博士ノ企業營造物同義説ハ未ダ目シテ現今行政法學上ノ定説ト做シ難キニ似タリ。茲ニ於テ我等門外漢ハ適從スル所ヲ知ラズ甚ダ困惑セザルヲ得ザルナリ。

更ラニ轉ジテ獨逸經濟學者ノ用語例ヲ見ルニ企業ナル概念ヲ定ムルニ幾多ノ異説アルハ勿論ナリト雖モ其ガ『營利ノ目的ノ爲メスル組織』ナルコトハ一人モ之ヲ否定スルモノナキガ如シ。元來 *Unternehmung* ナル文字其モノニハ必ズシモ營利ノ意ヲ含ムニアラザルハ勿論ナリト雖モ今日現在ニ於テハ經濟上 *Unternehmung* ノ概念ハ其最要ノ要件トシテ『營利』ノ觀念ヲ有スルモノナルコトハ一々所依ヲ茲ニ列舉スルマデモナク同學同人ノ一様ニ認承セラルル所ナル可シ。美濃部博士ガ『營造物』ヲ極メテ拙劣ナル新熟語ヲ厭フノ餘リ『企業』ナル文字ヲ捉へ來リテ之ニ代ハシメントセラルル用意ニ至テハ予等門外漢ノ敬服措ク能ハザル所ナリト雖モソハ少クト

モ獨逸經濟學ノ存在ヲ全然無視シ又タ獨逸人現在ノ一般用語法ニ著シキ變革ヲ要求スルモノト云ハザル可カラザルガ如シ。博士曰ク、

獨逸語ノあんすたること云フ語ハ本來企業（うんてるれめん）ト云フ語ト同ジ意味ニ用非ラレ居ル語デ公ノあんすたること言へバ即チ公ノ企業ト云フ意味デアルハソレデアアルカラ獨逸語デハ公企業ト云フ語ト營造物ト云フ語トハ常ニ混同シテ用非ラレテ居ツテ更フニ區別セラレナイノガ通常デアル。<sup>(2)</sup>

博士ガ本來又ハ常ニト云ハルハ「行政法學ニ於テ」ナル限定ノ下ニ於ケルカ又ハ此クノ如キ限定ナク一般ニ主張セラルルモノナルカ明瞭ナラザルモ若シ後者ナリトセバ予ハ我邦并ニ獨逸經濟學者ノ殆ンド全部ノ贊同ノ下ニ博士ニ抗議ヲ提出シ得ルモノナリト信ズ。思フニ博士ノ意ハ行政法學上又ハ公法學上ニノミ限定シテノコトナル可シ。假ニ此ク推定シテサテ門外漢タル予輩ハ博士ノ所依如何ヲ檢スルニ博士ハふらいな一ノ獨逸行政法ヲ引キ居ラルルガ其譯文ニヨレバ博士ノ主張ニ取リテ必ズシモ有力ノ證據ヲ與ヘザルガ如シ。即チ其譯文ハ

國家又ハ地方團體カ上述ノ營造物ヲ經營スルハ其結果ニ於テハ私人カ同様ノ企業ヲ經營スルト異ナルコトナシ

ト云フナリ。コハ決シテ博士主張ノ『企業ト營造物トハ常ニ混同シテ用ラレ』又ハ『本來同シ意味ニ用キラレ居ル語』テフコトヲ立證セズ。其結果ニ於テハ國家又ハ地方團體ノ營造物ノ經營ハ私人同様ノ企業ノ經營ト異ナラズト云フコトハ企業ト營造物トガ混用セラレ又ハ同義語トセラルルコトト決シテ同ジカラズ。卑近ナル例ヲ以テ云ヘバ「國ヲ治ムルハ小鮮ヲ養ルガ如シ」ト云ヒタリトテ國ト小鮮トガ混用セラレ又ハ同義語トシテ取扱ハルルニアラズ。ふらいな一氏ハ經營ノ結果ニ就テ云ヘルモノニシテ前述ふつくす說ノ如ク目的上營造物タリトモ結果ヨリ云ヘバ餘剩經營タルモノアリ此種ノ營造物ノ經營ハ私人企業(否營利ヲ目的トスル公企業)ノ經營ト其結果ニ就テ見レバ同一ナルナリ。ふらいな一氏ハ此理ヲ説明シタルモノニシテ企業經營物同義非同義論ヲ試ミタルモノニアラザル可シ。予ハ字義解釋ノ上ヨリ又タ普通論理ノ上ヨリ此ク信

ズルガ故ニ博士ノ引用ハ何等ノ典據ヲ與ヘズト感ゼザルヲ得ズ。次ノ引用句『或ル企業カ營業ニ非ズト決スルモ其ノ企業カ總テノ關係ニ於テ公法ニ依リ支配セラルルモノトス可カラズ何トナレバ營業ニ非サル營造物ニ付テモ法律ハ或ハ其箇々ノ關係ニ付テ私法ニ服セシムルヲ妨ケサレバナリ』ハ之ニ反シ兩語混用ヲ立證シ得ルガ如シト雖モ字面ヨリ云ヘバ前ノ企業ト後ノ營造物トハ必ズシモ全然同一物ヲ指シテ云フモノト解釋シ得ズ。『營業ニアラザル營造物』ハ一般概括的ノ意ニ用ラレ前ノ企業ハ『或企業』ト云ヒテ箇々具體的ノ意ニ用ラレ居ルナリ。字面上ノ例ヲ以テ云ヘバ『或人ガ學者ニ非ズト決スルモ其人カ總テノ關係ニ於テ學問ニ關係ナキモノト云フ可カラズ。何トナレバ學者ニ非ザル人タリトモ場合ニヨリテハ學問ニ關係スルヲ妨ゲザレバナリ』ト云フガ如シ。次ニまいや一氏ガ其佛譯ニ於テあんすたるとヲあんとするぶりーずトシ居ルコトハ前云フ如ク佛語ニあんすたるとニ當ル文字ナキ爲メニシテ織田博士



ハ詳シク此點ヲ考ヘテ Service public ヲ以テ  
 öffentliche Anstalt ニ充ツルヲ穩當ナリトセラ  
 レタリ。同博士ノ示メサル所ニヨレバまいや  
 一氏ハ öffentliche Anstalt ニ充ツルニ enterprise  
 publique ヲ以テシ尙ホ括弧ヲ施シテ établissement  
 public ノ字ヲ添加セリト云フ<sup>3)</sup>。而シテ博士ハ曰  
 ク『然ントモ enterprise publique ハ公共起業(美  
 濃部博士ハ企業テフ我等經濟學ノ譯語ヲ採用セ  
 ラルルモンハ我行政法學者間ニ一般ナラザルコ  
 トヲ以テ知ル)ノ義ニシテ öffentliches Unter-  
 nehmen ニ當リ öffentliche Anstalt トハ自ラ其  
 義ヲ異ニス』ト明カニ斷言セラル。サレバ美濃  
 部博士ガまいや<sup>4)</sup>ガあんすたると<sup>4)</sup>あんどる  
 ぶり<sup>4)</sup>らずトシタリトノミ云ヒテ括弧中ニえた  
 ぶりすまんヲ添加シテ右顧左眎決セザル狀ア  
 ルヲ云ハズシテまいや<sup>4)</sup>氏ハ兩語ヲ國義語ト用  
 エト云ハルハ精確ノ點ニ於テ足ラザルハ勿論  
 自說ニ便アル部分ノミヲ取リテまいや<sup>4)</sup>氏ヲ  
 「ヒイキ」ノ引倒シセラレタルモノト云フ可キニ  
 似タリ。兎ニ角此條モ亦博士ノ典據トシテハ有

カナリト考ヘ得ラレズ、少クトモ博士ノ如ク斷  
 定的主張ヲ立ツル根據タリ能ハズト云フ可シ。  
 而シテ後博士ガ再ビ『營造物トハ本來企業ト同  
 意義テアツテ而シテ企業ト言ヘバ敢テ人民ノ利  
 益ニ供セラレルモノタルト否トヲ問ハナイコト  
 ハ勿論デアル、帝國學士院……ノ如キ皆國家  
 ノ企業デアツテ』ト主張セラルルヲ讀ミテ予ハ  
 頭腦ノ混亂止メ難キヲ覺エタリ。帝國學士院ガ  
 企業ナリトハ我等狹キ經濟學ノ境界内ニ隔躋シ  
 ツツアルモノニ取リテハ實ニ破天荒ノ新説タ  
 リ。若シ此ク主張スルモノガ公法學ノ權威タル  
 美濃部博士ニ非ズシテ經濟學士何誰氏ナリシト  
 センカ其ハ實ニ我經濟學界未曾有ノ一大事件タ  
 ル可キコト疑フ容レズ。經濟論叢ノ讀者諸君ハ  
 予ガ此言ヲ以テ決シテ誇張トセザル可キヲ確信  
 ス。博士ハ行政法學上面倒ナル『營造物』ヲ斥ケ  
 ンガ爲メニ其代物トシテ經濟學界ヨリ『企業』ヲ  
 取り去ラントセラル。予ハ博士ノ無情ヲ恨マザ  
 ルヲ得ズ。

然ルニ織田博士ノ文ヲ見ルニ既ニ前ニ引ケル如

3) 京都法學會雜誌第十一卷八號第二十六頁註(2)

4) 全上

5) 同上誌第八十七頁

見ト粗ボ合致スルモノノ如シ。

(四)

予ハ自己ノ何事ヲモ知ラザル行政法學上ノ議論ニ干與セントスル念ハ毫モ之ヲ有セズ。サレバ以上美濃部、織田兩博士ノ說ニ對シ云フ所ハ單ニ其經濟學上ノ應用ニノミ關スルコト勿論ナリ營造物ナル邦語ハ美濃部博士ノ云ハルル如ク如何ニモ拙劣ナリ拙劣ハ忍ブ可シ爲メニ幾多ノ誤謬ヲ惹起コスニ至テハ忍ブ可カラズ。惹起サレ易キ誤謬ノ中殊ニ大ナルモノハ水野博士ガ引用セラレタル『此所民法立入ル可カラズ』テフ禁札ニ關スル解釋ナリ。而シテ其誤謬ノ爲メニ至大ノ迷惑ヲ被ルモノハ實ニ社會政策就中都市社會政策ナラズンバアラズ。營造物(總攬博士ノ公用物ハ之ト同義ナリト解釋ス當レリヤ?)ノ概念行政法學上必ズシモ確定不動ナラズ況ンヤ經濟學、社會政策ニ於テヤ。然ルニ之ヲ確定不動トシテ此所民法立入ル可カラズトノ禁令ヲ勵行セラルルトキハ現世ノ社會政策ハ其存在ノ根據ノ大半ヲ亡失スル事トナルノ惧アリ。目下問題トナレル

ク博士ハ營造物ト公共起業トヲ同一ナラズトセラルル點ニ於テ少クトモ經濟學ト行政法トガ別乾坤ニ棲ムモノト考フル必要ナキヲ知リテ予ガ心ハ安ズルヲ得タリ。博士ハ獨逸語 öffentliche Anstaltニ廣狹ノ二義アリトシ廣義ニ於テハ特定ナル公益ノ目的ニ充テラルル一切ノ設備ヲ總稱スレトモ其特ニ法律上ノ問題トシテ論セラルルモノハ狹義ノモノニ係ル即チ學校、貯金局、病院、郵便、鐵道等ノ如ク專ラ公衆ニ對シテ利益ヲ與ヘ役務ヲ供スルニ依テ其目的ヲ達スルノ設備是レナリトシ佛語 Service public 或ハ之ニ當ルヘキナリト云ハル。(英語ニテモ近來 Public utilities ナル語粗ガ同様ノ意ニテ用ラルレバ博士ガ佛語ゼンゲイイブザリつくナ充テラルルハ甚ダ當テ得タルニ似タリ)博士ノ此解說并ニ博士文ノ全體ニ於テ立論セラルル所ハ之ヲ經濟上ヨリ見レバ前掲ふつくす氏ニヨリテ代表セラルル獨逸經濟學者多數ノ說ニ克ク照應スルモノナリ。而シテ博士ガ研究ノ結果說ヲ改メラレテ前掲論文第三十九頁第二項以下ニ論ぜラルル所ハ社會政策學會大會ニ現ハレタル意

東京市電車舊乘車券問題ノ如キ其最モ痛切ニ感ゼラルル一例ナリ。東京市ノ電車ハ公營造物(又ハ公用物)ナリ、此所民法立入ル可カラズ。其賃錢ハ公營造物ノ使用料ナリ、此所民法立入ル可カラズ。公營造物ノ使用料ハ一方的且ツ強制的ニ定メラル、此所民法立入ル可カラズト。世若シ這箇ノ禁札ヲ濫用スルコト斯クノ如キモノアリトセバ法律上ノ問題ハイザ知ラズ、都市社會政策モ經濟政策モ殆ンド破産ニ陷ルノ外ナカランナリ。幸ヒニ松本博士ノ明快透徹ナル一文アリテ禁札ノ濫用ハ之ヲ憂フルニ及バザルガ如シト雖モ、此事一回ニシテ止ム可シト思ヘズ向後必ズ繰返シテ起リ來ルコトナル可シ。我等今ニ於テ各専門ノ立場ヨリ充分ノ研究ヲ積ムコト一ノ急務ナラズヤ。予ハ未ダ何等研究シタル所アルニ非ズ唯ダ獨逸ノ學者ニ學ビテ知レル所ヲ頼リトシテ公法私法一切ノ法律問題以外經濟學ノ立場ヨリ東京市電車舊乘車券問題ヲ一ノ課題トシテ抑モ公(殊ニ都市)營造物ノ性質并ニ任務ニ就テ以下少シク管見ヲ陳述セント欲スルモノナリ。